

# 農業経営者育成学校 令和7年度の運営と評価

Shonai  
Ecological  
Agri  
Design  
School



SEADS

令和8年6月

鶴岡市立農業経営者育成学校

# 目 次

○ 挨拶	1
<u>1. 報告にあたって</u>	
(1) 目的	2
(2) 市立農業経営者育成学校「SEADS」の概要	2
(3) SEADSの教育方針	3
<u>2. 令和7年度の活動実績</u>	
(1) 研修生の受入	4
(2) 研修カリキュラムの実践	5
(3) 修了及び就農支援	9
<u>3. 令和7年度の運営と評価検証・改善</u>	
(1) 運営の評価検証	10
(2) 令和7年度の改善と自己評価	
① 研修生の受入	10
② 研修の実施	10
③ 修了及び就農支援等	11
(3) 令和8年度の改善事項	11
資料:令和7年度SEADS運営評価シート	12



鶴岡市長 佐藤 聡

鶴岡市立農業経営者育成学校「SEADS（シーズ）」は、地域の農業経営者を育成するため、鶴岡市が令和2年4月に開校しました、東北で唯一の市が運営する宿泊機能を兼ね備えた新規就農者向けの研修施設です。

令和8年度は開校から7年目を迎え、これまで1期生から5期生までの35名が研修を修了し各地域で就農し、現在も6期生、7期生合わせて20名の研修生が2年間の研修に取り組んでおります。

昨今の不安定な国際情勢を背景に、食料の安定供給への関心が高まり、農業の担い手となる新規就農者の育成・確保がますます注目されているなかで、市としても地域農業の担い手確保に積極的に取り組んでまいります。



校長 百瀬 清昭

SEADSは令和2年の開校以来、「田畑が人を育てる」という現場主義を掲げ、県はじめ関係機関、団体のご支援を頂き、学校運営が7年目を迎えました。

今春、実習先農業者のご指導の下、2年間の実践研修を積んだ第5期生8名が各地で農業経営者として第一歩を踏み出しました。「新規就農よろず相談所」の相談機能を一層強化して、修了生が早期に経営確立し、地域に定着できるよう支援してまいります。

今後もスタッフ一丸となり、研修カリキュラムと就農後の支援方法の不断の改善を行い、猛暑など変動する農業情勢に対応した人材育成の取組を重ねていきたいと考えております。

# 1. 報告にあたって

## (1) 目的

開校から7年が経過し、SEADSをより良い研修施設にするため、自己評価し改善すること、またSEADSの運営と研修生の活動状況を幅広く知っていただくことを目的に、令和7年度の研修の活動実績や運営における評価・改善の取組みについて、報告書としてまとめました。

## (2) 市立農業経営者育成学校「SEADS」の概要 (Shonai Ecological Agri Design School)

### ①コンセプト

「有機農業をはじめ持続可能な農業の技術・経営を座学と実習を通じて学ぶ」

### ②施設

旧いこいの村庄内（鶴岡市千安京田）をリノベーションした校舎兼宿舍

構造：鉄筋コンクリート造地下1階付2階建 規模：6940㎡

（施設取得：H31.3、施設改修：R1.10からR2.3、開校：R2.4）

施設：研修室（大、中、小）、個人宿舍（洗面台・トイレ付き）、

ライブラリー、共用キッチン、食堂、シャワールーム、敷地内農場

### ③運営体制

「農業の人材育成・確保に関する協定」を締結した、鶴岡市、JA鶴岡、JA庄内たがわ、山形大学農学部、東北芸術工科大学、株式会社SHONAI、鶴岡工業高等専門学校、庄内農業高等学校の8者によるSEADS運営管理委員会を決定機関とし、鶴岡市が運営しています。

### ④運営スタッフ

校長1名、農業技術担当3名、就農支援担当3名、研修運営担当1名、  
研修生募集担当1名、農政課職員1名 計10名

## (3) SEADSの教育方針

### ①研修生の受入方針（アドミSSION・ポリシー）

地元並びに県内外から広く研修生を募り、本気で農業を学び営農したい人を受け入れます。

既存の発想にとらわれず、新しい価値を生み出す創造力があり、農業に対し好奇心と探求心を持ち、地域に溶け込み定住し、就農する確かな意志がある研修生を求めます。

### ②研修の実施方針（カリキュラム・ポリシー）

農業の技術・経営力を身につけるため、2年間、座学と実習を通じて学びます。カリキュラムには3つのポイントがあります。

○ つくる【農業技術】 農業技術を基礎の基礎から学ぶ。

座学での理論習得はもちろん、実習を通じて現場で生きる技術を身に付けます。

○ かせぐ【経営能力】 稼げる農業の実現に必要な能力を培う。

営農計画の作成、経営管理、販路の開拓手法等を実践者から学び身につけます。

○ はじめる【就農支援】 就農時の農地・施設・機械・資金・販路などの就農準備を支援。雇用就農を希望する場合も支援します。

### ③ 研修の修了方針（ディプロマ・ポリシー）

必要な講義数、研修時間を修了し、自ら希望する作目の生産技術、経営能力を習得するとともに、農業の担い手として地域に根付き、地域の行事に積極的に参加するなど、地域住民と協調し貢献しようとする姿勢を身につけます。



施設外観



受入農家のもとでの実習風景



研修施設内での座学風景

## 2. 令和7年度の活動実績

### (1) 研修生の受入

第7期生（令和8年4月入校、令和10年3月修了）となる入校生を確保するため、また、広くSEADSの認知度を向上させるため、下記の活動を行いました。

#### ○就農イベントへの出展、オンライン学校説明会の開催

首都圏等からの入校生を確保するため、東京・大阪で開催された日本最大級の就農イベント「新・農業人フェア」に出展し、新規就農及び移住に関心のある方にSEADS入校のメリットや鶴岡市の魅力をPRしました。

出展ブースでのコミュニケーションをきっかけに、SEADSに興味を持っていただいた方に対して、オンラインでの学校説明会を行いました。

##### ①新・農業人フェア

9月15日 東京（東京国際フォーラム）出展

11月 9日 大阪（グランキューブ大阪）出展

11月23日 東京（東京ビックサイト）出展

②オンライン学校説明会 9月25日（参加者5名）



新農業人フェアへのブース出展

#### ○入校体験会・個別説明会の開催

SEADSへの入校を検討している方に、より深くSEADSを知っていただくため、入校体験会や個別説明会を開催しました。入校体験会では、2日間に亘って座学体験や研修受入農家のもとでの収穫体験、個別説明会では、研修内容の紹介、校舎の説明を行いました。

##### ・入校体験会

第1回 7月26～27日 参加者 6名

第2回 11月 1～ 2日 参加者 7名

・個別説明会（随時） 参加者13名



入校体験会の研修生との交流会

入校体験会や個別説明会の参加者からは、SEADSでの生活環境がよく分かり研修生や受入農家と生の交流が出来て、より現実味が持てたという声がありました。

この取組みはSEADSでの研修や生活を知っていただく大切な機会であり、入校願書提出までに現地での参加をお願いしています。

#### ○PR活動

市民や庄内地方在住の方、関係団体等に広くSEADSの取組みを知っていただくとともに、入校生を募集するため、以下の方法で周知・PRを行いました。

- ・県内関係機関、関係団体への訪問PR（JA、農業共済組合、高等学校、農業法人、産直施設等）
- ・つるおか大産業まつりへの出展
- ・SEADSニュースの発行（12回発行）
- ・5周年祭（10月25日開催）



大産業まつりへの出展

## (2) 研修カリキュラムの実践

研修は、【座学】で基礎知識や経営等を学び、【実習】で受入農家やSEADS農場の現地で学ぶ2年間のカリキュラムです。令和7年度は、トラクター運転技術研修を取り入れ、大型特殊免許を取得しています。また、研修生には研修満足度のアンケートを実施し、出された要望や意見を次年度以降のカリキュラムに反映させています。

### 座学：土壌肥料（6/12）



「土壌肥料」の講義では、2年生が土壌の吸着性を比較観察しました。

雨水など、濁った水や色のついた水が土の中を通ると、きれいな水になるのは土の「吸着性」という性質によるものですが、それぞれの土壌による吸着性の違いを観察しました。

### トラクター運転技術研修(10/30)



1年生は、就農後に農業機械の運転が円滑に実施できるようにするため、東北農林専門職大学で実施されている「トラクター運転技術研修」に参加し、大型特殊自動車（農耕用）の運転操作の技術を習得し、同免許を取得しました。

### 視察研修（7/10）



1年生は最上総合支庁産地研究室と県園芸農業研究所を視察し、実際に試験ほ場を見回りながらアスパラガス、大玉トマト、りんご、おうとうの栽培技術の説明を受けました。

2年生はイタリア野菜研究会（河北町）とアグリランド産直センター（寒河江市）を見学しました。

### 受入農家での実習（通年）



研修生は南庄内各地で実習を行い、農業技術のみならず、農家の生活リズム、出荷調整や作業をスムーズに行うコツなどを身に付けています。

夏場は猛暑日が連日続きますが、体調に気を付けながら学びを深めています。

# 《 1年生の研修カリキュラム（令和7年度） 》

○方針 農業の基礎を座学・実習等を通じて幅広く学び、自分が目指す就農形態を考えるためのカリキュラムを設定

分類	大項目	中項目	記号	小項目	講師	1年生		
						コマ数	時間数	
A ガイダンス	1 オリエンテーション	1 オリエンテーション	A-1-1-1	入校式・修了式	SEADS事務局	9	18	
			A-1-1-2	鶴岡市の紹介	農政課、観光物産課、食文化創造都市推進課	2	4	
	2 講話	1 講話	A-2-1-1	協定代表者・校長講話	協定代表者、SEADS校長	7	14	
			A-2-1-2	経営者講話	地元経営者他	5	10	
B 農業経営	1 販売戦略	1 販売戦略	B-1-1-1	概要・市場流通	J A 他	4	8	
			B-1-1-3	広報 I	會田悠城	1	2	
	2 経営計画	1 営農計画書作成	B-2-1-1	営農計画書作成 I	農業技術普及課、日本政策金融公庫、JA、栗田公司、三浦直人	26	52	
			2 作業計画書作成	B-2-2-1	作業計画書作成 I	栗田公司、三浦直人	3	6
	3 経営管理	1 財務管理	B-3-1-1	農業経営実践講座（複式簿記 I）	農業技術普及課	12	24	
			B-3-2-1	農産物検査法	農業技術環境課 J A	2	4	
		B-3-2-2	認証（特産・有機、GAP）	農業技術環境課、武田壮一	5	10		
		3 労務管理	B-3-3-1	労務管理	労働基準監督署	1	2	
		2 農業関係法令・認証コンプライアンス関係	B-3-2-1	農産物検査法	農業技術環境課 J A	2	4	
	C 農業技術	1 持続可能な農業の基礎理論	1 農業技術概論	C-1-1-1	農業技術概論	大場伸一	4	8
C-1-2-1				植物生理 I	西澤隆	10	20	
C-1-3-1				土壌肥料 I	栗田公司、三浦直人	6	12	
C-1-4-1				作物保護 I	栗田公司	3	6	
C-1-5-1				施設園芸	古野伸典	2	4	
2 栽培技術		1 水稲栽培	C-2-1-1	水稲栽培 I	富樫政博	7	14	
			C-2-1-2	農業経営実践講座（稲作）	農業技術普及課	10	20	
			C-2-1-3	視察研修 I（水稲）	富樫政博、佐藤泰示、武田壮一	6	12	
		2 野菜・花卉栽培	1 野菜・花き栽培 I	C-2-2-1	野菜・花き栽培 I	栗田公司、三浦直人	16	32
				C-2-2-2	農業経営実践講座（野菜）	農業技術普及課	12	24
			C-2-2-3	農業経営実践講座（花き）	農業技術普及課	8	16	
			C-2-2-4	視察研修 I（野菜・花き）	栗田公司、三浦直人	8	16	
		3 果樹栽培	1 果樹栽培 I	C-2-3-1	果樹栽培 I	農業技術普及課	2	4
				C-2-3-2	果樹栽培実習	庄内農業高校	18	36
				C-2-3-3	農業経営実践講座（果樹）	農業技術普及課	8	16
3 SEADS農場実習 1		SEADS農場実習	C-3-1-1	SEADS農場 I	栗田公司、三浦直人	49	98	
4 農業機械講習 1		1 農業機械講習	C-4-1-1	農業機械講習	農機メーカー、生産農家・法人、キャリアサポート研修C	38	76	
			D 就農・定住支援	1 就農相談	D-1-1-1	個別面談	SEADS事務局	12
2 補助制度等	1 補助制度等	D-2-1-1	農地・資金・補助制度		県、農政課、農業委員会、NOSAI	5	10	
3 農業者交流	1 農業者交流	D-3-1-1	農業者交流		農業委員会・農業経営実践講座生、農業士会、JA青年部、SEADS修了生他	12	24	
		4 健康相談	1 健康相談		D-4-1-1	ところとからだの健康相談	健康課、三原美雪、鈴木勝義	5
A～D 座学計						318	636	
E 実習計						432	864	
総計						750	1,500	

## 《 2年生の研修カリキュラム（令和7年度） 》

○方針 自分が目指す形の就農に向けて必要な知識・技術を学び、  
就農準備を加速させるためのカリキュラムを設定

分類	大項目	中項目	記号	小項目	講師	2年生	
						コマ数	時間数
A ガイダンス	1 オリエンテーション	1 オリエンテーション	A-1-1-1	入校式・修了式	SEADS事務局	8	18
			A-2-1-1	協定代表者・校長講話	協定代表者、SEADS校長	4	8
	2 講話	1 講話	A-2-1-2	経営者講話	地元経営者他	7	14
B 農業経営	1 販売戦略	1 販売戦略	B-1-1-2	市場流通	公設三川市場、J A	2	4
			B-1-1-4	広報Ⅱ	外部講師、㈱SHONAI	3	6
			B-1-1-5	デザイン	東北芸工大	4	8
			B-2-1-2	営農計画書作成Ⅱ	SEADS事務局	28	56
			B-2-2-2	作業計画書作成Ⅱ	SEADS事務局	5	10
	2 経営計画	3 就農準備	B-2-3-1	就農準備	SEADS事務局	107	214
			B-3-1-2	複式簿記Ⅱ	農業技術普及課	2	4
	3 経営管理	1 財務管理	B-3-1-3	経理会計・資金調達	農業技術普及課・J A	4	8
			B-3-2-3	契約書・採用	㈱SHONAI	2	4
			B-3-3-1	労務管理	労働基準監督署	1	2
			B-3-4-1	法人設立	山形県農業会議	2	4
			B-3-5-1	食と農のビジネス塾	地域定住農業者育成コンソーシアム	24	48
	C 農業技術	1 持続可能な農業の基礎理論	2 植物生理	C-1-2-2	植物生理Ⅱ	外部講師	10
C-1-3-2				土壌肥料Ⅱ	外部講師	10	20
C-1-4-2				作物保護Ⅱ	外部講師	8	16
C-2-1-4				水稲栽培Ⅱ	SEADS事務局	8	16
2 栽培技術		2 野菜・花卉栽培	C-2-1-5	視察研修Ⅱ（水稲）	SEADS事務局	2	4
			C-2-2-5	野菜・花き栽培Ⅱ	SEADS事務局、産地研究室	24	48
			C-2-2-6	視察研修Ⅱ（野菜・花き）	SEADS事務局	4	8
			C-2-3-4	果樹栽培Ⅱ	産地研究室	3	6
			C-2-4-1	農業経営実践講座（農産加工）	農業技術普及課	10	20
			C-3-1-2	SEADS農場Ⅱ	SEADS事務局	22	44
3 SEADS農場実習		1 SEADS農場実習	C-3-1-2	SEADS農場Ⅱ	SEADS事務局	22	44
4 農業機械実習		1 農業機械実習	C-4-1-1	農業機械実習	農機メーカー、生産農家・法人、キャリアサポート研修C	11	22
D 就農・定住支援		1 就農相談	1 就農相談	D-1-1-1	個別面談	SEADS事務局	12
	2 補助制度等	1 補助制度等	D-2-1-1	農地・資金・補助制度	県、農政課、農業委員会、NOSAI	2	4
	3 農業者交流	1 農業者交流	D-3-1-1	農業者交流	農業委員会・農業経営実践講座生 農業士会、JA青年部、SEADS修了生	12	24
	4 健康相談	1 健康相談	D-4-1-1	こころとからだの健康相談	健康課他	5	10
A～D 座学計						346	692
E 実習計	複合経営農家での実習 受入農家					404	808
総計						750	1500

## ≪受入農家での実習（令和7年度）≫

### ○1年生 野菜と水稲など複合経営の受入農家で栽培の基礎を実習

No.	実習先	研修作目
1	西郷	メロン・さやいんげん・ほうれんそう・白かぶ・水稲
2	大泉	枝豆・チンゲン菜・水稲
3	大泉	枝豆・大玉トマト・ブロッコリー・水稲
4	京田	花き（スカビオーサ・リンドウ・アスター）・水稲
5	櫛引	柿・おうとう・ぶどう・和なし・西洋なし・枝豆
6	西郷	メロン・花き（アルストロメリア・トルコギキョウ）
7	西郷	メロン・ミニトマト・ブロッコリー
8	三川町	水稲
9	櫛引	メロン・軟白ねぎ・水稲

### ○2年生 各々の就農を見据えた作目での実習

No.	実習先	研修作目
1	大山	水稲・枝豆
2	京田	枝豆・なめこ・水稲
3	西郷	メロン・ミニトマト・トルコギキョウ・水稲
4	藤島	水稲（有機・特裁）・大豆
5	西郷	メロン・いちご・大根・ブロッコリー・ねぎ・水稲
6	西郷	メロン・ミニトマト・水稲
7	座学のみ	
8	大泉・京田	枝豆（有機・特裁）・水稲（有機・特裁・慣行）

### (3) 修了及び就農支援

2年生は翌年度からの自身の就農に向け、生産したい作物の生産技術を実習等で身につけ、農地や住居の取得に向けてSEADS就農支援アドバイザーとともに関係者と協議を重ねました。合わせて自身の就農計画を立案し、市、JA、農業委員、庄内総合支庁、金融機関等のアドバイスを受けながら新規就農の準備を整え、8名全員が修了しました。

#### ○新規就農よろず相談に対応

令和6年度4月にSEADS内に「新規就農よろず相談所」を開設し、SEADS修了生を中心に就農後感じる疑問や不安に寄り添い、営農指導や支援制度等の情報提供、必要に応じて県、JA、農業委員会などと連携したサポートを行い、経営安定化までの伴走支援をしています。



新規就農よろず相談所での相談対応

#### ○修了生との情報交換会

2月18日に就農1年が経過した4期生との情報交換会を実施しました。

修了生からは栽培管理の仕方、新規就農してからの課題や研修中にやっておくべきことなどのアドバイスを受け研修生には大変参考になる機会となりました。



修了生との情報交換会

#### ○2年生(第5期生)修了式

3月13日に令和7年度修了式を開催し、5期生8名が修了しました。

修了生8名のうち4名が独立自営就農、4名が親元就農で、水稲、メロン、ミニトマト、ぶどう、ももなど、それぞれが目指す品目で農業をスタートしました。

修了生代表の庄司求さんが「2年間の研修の思い出を振り返るとともに、経営の安定に向けて頑張りたい。」と決意の言葉を述べました。



修了証書を受け取る5期生

## 3. 令和7年度の運営の評価検証・改善

### (1) 運営の評価検証

令和2年度の開校から現在に至るまでの間、研修運営や農業技術指導、農地や住居等の就農支援について、県農業技術機関やJA等の協力をいただきながら、市のスタッフが主体的に研修を運営できるようにノウハウの「内製化」を進めてきました。

SEADSの事業計画や施設運用等を着実に効果的に実施するために、令和5年度から運営の評価検証を行ってきております。

3つの評価の区分（受入、研修、修了）ごとに、数値化や実施の成否等で定量的に評価できる成果目標を定め、毎年度その結果及び改善策を『運営評価シート』として整理し、計画、実行、評価、改善のPDCAサイクルで検証しています。

SEADSでの自己評価、市役所全体の内部評価を経て、その内容を公表しております。

### (2) 令和7年度の改善と自己評価

#### ①研修生の受入

##### 【改善】

令和7年度は開校5周年を記念し、5周年祭を実施するなど、市民、農家、自治会や経営者等多くの方にSEADSを認知し応援してもらえるよう、PR活動を強化しました。

##### 【評価】

オンライン学校説明会が年2回開催予定だったものの、2回目の申し込みがなかったことから1回のみの実施となりました。しかし年2回の入校体験会や個別説明会の実施などにより、令和8年入校者数については過去これまで最も多い13名を確保することができました。

#### ②研修の実施

##### 【改善】

- ・受入農家からの要望により、実習日を「月・火・水」から「月・水・金」に変更しました。
- ・東北農林専門職大学と連携し、「トラクター運転技術研修」を1年生のカリキュラムに組み入れました。
- ・両JAによる「販売・流通(JA鶴岡・1年生)」「資金調達(JA庄内たがわ2年生)」の講義をカリキュラムに組み入れました。

##### 【評価】

カリキュラムは計画通り行うことができました。研修の満足度では2年生の農業経営に関する座学（法人設立、契約書作成等）の理解度が低く、スコアを落とすこととなりました。

### ③修了及び就農支援等

#### 【改善】

独立自営就農者を中心に修了生への圃場巡回や面談を定期的を実施し、各々の経営課題の解決に向けた伴走支援を強化しました。

#### 【評価】

- ・1年生は9名全員が年次課程を修了しましたが、うち2名は、親元就農時期を早めたことから2年次課程には進まず退校しました。2年生は8名全員が修了し就農しました。
- ・2年生の農地・住居についても、受入農家等の協力をいただきながら、独立自営就農の4名の農地と1組の夫婦の住居を確保することができました。

## (3) 令和8年度の改善事項

令和7年度の取組みの評価を踏まえて、今後さらに重点的に強化すべきこと、見直すべきことを整理し、次年度の活動において実践します。

また、研修生や修了生の生の声は重要であり、生活環境に対する満足度や研修内容が就農後も役立っているかなどを調査し、その結果を今後の運営改善に活かすこととしております。

#### 【研修生の受入】

- ・募集日程については、引き続き7月1日からとし、研修生の早期確保を目指します。
- ・就農イベントについてはこれまでの出展回数や出展エリアを検証し、効率的に実施します。

#### 【研修の実施】

- ・クマ、イノシシ等による農作物被害の増加や労働力不足など社会情勢を踏まえたカリキュラムを追加します。
- ・新規就農後に安定した経営に移行できるよう経営計画作成の支援体制を強化します。
- ・研修生からの意見を踏まえ、研修生の理解度を深めるため適宜カリキュラムの見直しを図ります。

#### 【修了及び就農支援等】

- ・修了生の様々な悩みや疑問に対応するため、よろず相談所機能の強化を図ります。
- ・修了生（特に独立就農者）への定期的な圃場巡回や面談を継続し、経営課題の解決に向けての伴走支援を強化していきます。
- ・就農後3～5年目の修了生を対象とした実践的な知識・技能の習得を目的としたリカレント教育を実施します。

<p><b>【R7改善事項】</b> R7は開校5周年であることを活かし、開校5周年祭を実施し、地元市民、農家、自治会や経営者等多くの方にSEADSを認知し応援してもらえるよう、PR活動を強化した。</p>						
研修生受入			R6	R7	達成度	
	就農イベント参加・オンライン学校説明会開催回数	回	計画	5	5	B
			実績	5	4	
	入校体験会・個別相談会参加者	人	目標	20	20	A
			実績	20	22	
入校者数	人	目標	10	10	A	
※実績は翌年度4月の入校者数を記載		実績	9	13		
<p><b>【評価】</b> 就農イベント参加については、オンライン学校説明会が年2回開催予定だったものの、2回目の申込者がいなかったことから2回目は未開催となった。入校体験会等については、計画通り実施できた。また、R8入校者数については過去同記録となる13名を確保することができた。</p>						
<p><b>【R7改善事項】</b> ・受入農家からの要望により、実習日を「月・火・水」から「月・水・金」に変更した。 ・東北農林専門職大学と連携し、「トラクター運転技術研修」を1年生のカリキュラムに組み入れた。 ・両JAによる「販売・流通(JA鶴岡・1年生)」「資金調達(JA庄内たがわ2年生)」の講義をカリキュラムに組み入れた。</p>						
研修の実施			R6	R7	達成度	
	平均履修時間(1年生) ※座学・実習を1年間受講した研修生のみが対象	h	目標	1,500	1,500	B
			実績	1,429	1,345	
	平均履修時間(2年生) ※座学・実習を1年間受講した研修生のみが対象	h	目標	1,500	1,500	B
			実績	1,459	1,333	
	カリキュラム満足度(5段階評価7/10)		目標	4.5	4.5	
	1年生【座学】	点		4.4	4.7	A
			【実習】	4.8	4.9	A
2年生【座学】	4.6		4.3	B		
【実習】	4.6		4.8	A		
<p><b>【評価】</b> カリキュラムは計画通りの研修を行うことができた。研修の満足度は2年生の農業経営に関する座学(法人設立、契約書作成等)の理解度が低く、スコアをB評価に落とすこととなった。</p>						
<p><b>【R7改善事項】</b> 独立自営就農者を中心に修了生への圃場巡回や面談を定期的実施し、各々の経営課題の解決に向けた取組への伴走支援を強化した。</p>						
研修修了			R6	R7	達成度	
	研修生数(3月31日現在)		人	15	17	
	1年生	8		9		
	2年生	7		8		
	修了要件達成者(1,200h/年以上) ※座学のみ研修生の修了要件は、座学時間の80%以上の履修とする。	15		17		
	1年生	8	9	A		
	2年生	7	8	A		
	修了者数			7	8	
<p><b>【評価】</b> ・1年生は9名全員が年次課程を修了した。9名のうち2名は、親元就農時期を早めたことから1年次課程修了後2年次課程には進まず、退校した。2年生は全員が修了し、就農した。 ・2年生の農地・住居についても、受入農家等の協力を得ながら、独立自営就農の4名の農地、新たな住居を必要とした1組の夫婦の住居を確保することができた。</p>						

A:100%以上  
B:80%以上100%未満  
C:50%以上80%未満  
D:50%未満

達成度	A	B	C	D
達成項目数	7	4	0	0
達成割合	64%	36%	0%	0%

その他	<b>【R7改善事項】</b>				
	開校5周年の節目に市内外での認知度向上に寄与するため関係者と連携し、5周年記念イベントを開催し、入学希望者の増加や市民理解の向上につながる取組を実施する。				
			R6	R7	備考
	居室利用（全32室）	活居室数	10	9	
		入居者数	11	10	
	生活環境に対する満足度（5段階評価アンケート）	点	4.3	4.7	R5より実施
	研修内容が就農後も役立っているか（5段階評価アンケート）	点	4.4	3.5	R5より実施 R7回答は3期生
	就農者累計	人	27	35	各年度4月1日時点
認定農業者累計（就農5年後以降）	人	-	-	R8から記載	
【評価】「生活環境に対する満足度」は、昨年度より評価が高かった。就農から2年が経過した3期生に実施した「研修内容が就農後も役立っているか」については、果樹に対する研修が少ない等の意見があり、マイナス点となり評点を落とした。					

参考	運営経費（決算）	千円	38,413	36,231	
	特定財源（補助金、授業料等）	千円	5,964	6,625	補助金：3,246千円 授業料等：3,160千円 その他：219千円
	一般財源	千円	32,449	29,606	
	プロモーション委託業務等の精査を進めた他、公共下水道受益者負担金の支払終了により、昨年度より運営経費（プロモ約17万円、下水道約150万円）を削減することができた。引き続き、事業の精査を進めると共に、補助金を活用し、効率的な運営に努めていきたい。				

《R7評価総括》

<b>【研修生受入】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>5期生は全員修了し就農することができ、6期生についても全員年次課程を修了することができた。</li> <li>R8年入校の7期生についても過去最大の人員を確保し、目標を達成することができた。</li> </ul>	
<b>【研修の実施】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>年間1,200時間以上の座学・実習の時間を確保し、1,2年生共に全員修了することができた。</li> <li>受入農家や関係機関の協力によりカリキュラムを組み入れる等、業務の改善をすることができた。</li> <li>研修生の満足度という観点からは、法人設立等の経営に関する専門的な知識の修得に課題が残る形となった。</li> </ul>	
<b>【研修修了】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>修了生に対するアンケートではSEADSの座学、実習が就農後概ね役立っているという意見がある一方で、就農後の知識を入校中に補うのは難しいという意見があった。</li> <li>運営経費については、業務の精査を通じて削減することができた。</li> </ul>	

《R8の改善事項》

<b>【研修生受入】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>募集日程については、引き続き7月1日からとし、研修生の早期確保を目指す。</li> <li>就農イベントについては開催回数等を検討し、効率的に実施する。</li> </ul>	
<b>【研修の実施】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>クマ・イノシシ等による農作物被害の増加や労働力不足など社会情勢を踏まえたカリキュラムを追加する。</li> <li>新規就農後に安定した経営に移行できるよう実現可能な経営計画の作成支援体制を強化する。</li> <li>研修生からの意見を踏まえ、研修生の理解度を深めるため適宜カリキュラムの見直しを図る。</li> </ul>	
<b>【研修修了】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>相談対応スタッフの充実等、よろず相談所機能の強化を図る。</li> <li>修了生（特に独立就農者）への圃場巡回や面談を定期的に行い、各々の経営課題の解決に向けた取組への伴走支援を強化していく。</li> <li>就農後3～5年目の修了生を対象とした実践的な知識・技能の習得を目的としたリカレント教育を実施する。</li> </ul>	